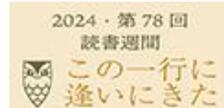




第78回 読書週間

林芙美子『放浪記』

『越後妻有 ふるさとのお寺』刊行  
11月、閉架書庫公開はお休みです  
リサイクル本市



トイレのはなし 11月19日は「世界トイレの日」



11月19日は「世界トイレの日」です。この記念日は、2001年11月19日に「世界トイレ機関」、「世界トイレサミット」が創設、開催されたことを記念してつくられました。その後、トイレに関する問題を考え、少しでも改善していくことを目的として、2013年に「世界トイレの日」として国連総会で正式に制定されました。

世界では、全人口の19%にあたる15億人の人が、いまだに排せつ物を衛生的に管理・処理できる基本的なトイレを使用できずにいます。また、不衛生な水や、トイレ以外の場所での排せつなどによって体内に細菌が侵入し、1日に1300人以上の子どもたちが下痢性疾患で亡くなるなど、まだまだ解決すべき問題がたくさんあります(ユニセフ「世界トイレの日」プロジェクトHPより)。

衛生的な水洗トイレにも、大量の水や、下水道の設備が必要であるという問題があります。富士山でトイレトーパーが「白い川」となった、山小屋のトイレの汚物処理問題(現在は改善されています)、災害が起きた際の被災地のトイレ問題など、この日をきっかけにトイレについてちょっと考えてみるのもいいかもしれませんね。

現在発見されている世界最古のトイレは、紀元前2200年ごろのメソポタミア文明の、レンガを積み上げた水洗式のトイレといわれています。紀元1~2世紀ごろに最盛を誇ったローマ帝国では上下水道が発達し、水洗式の公衆トイレもありました。ヨーロッパでは、中世になると水洗式は廃れ、腰掛式の便器を使うようになります。たまった汚物は、建物の外に窓からそのまま投げ捨てていました。捨てる時間は決まっていたようですが、「水にご用心!」、と上の窓から声が聞こえると、下を歩いている人は慌てて避けて通らなければならなかったとか。かかとの高いハイヒールが生まれたのは、通りが汚物だらけで、足が汚れないようにするためだったといわれています。ヨーロッパで本格的に水洗トイレが普及するのは、1850年代に下水道が発達してからでした。

日本では、飛鳥時代の都、藤原京の遺跡に水洗トイレの跡があります。水を引き入れた溝をまたいで使うもので、ほかにも汲み取り式のトイレがありました。場所によ

って使い分けられていたと考えられます。その後、平安時代には、今の「おまる」のようなものが使われていました。

日本で現存する最古のトイレ建築は、京都にある東福寺の「白雪隠(ひやくせっちん)」という「東司(とうす・とんす、トイレのこと)」です。600年前の室町時代に建てられたもので、幅が約10メートル、奥行きは約27メートルもある大きな建物で、国の重要文化財にも指定されています。禅宗ではトイレも修行のひとつとされ、使う際には様々な順序や作法が決められていました。

のちの江戸時代には、トイレで集められた汚物は肥料として売買されました。大名屋敷や牢獄など、集めた場所によってその値段が変わったそうです。

トイレに欠かせないものといえば、紙。意外にも、トイレで紙を使う地域は世界で3分の1程度ということです。紙のなかった時代は、葉っぱ、木のへら、水、小石や砂、トウモロコシの毛、海綿、ロープなどが利用されていました。ロールタイプのトイレトーパーがお目見えしたのは、1880年ごろ。アメリカとイギリスでほぼ同時期に登場しました。日本ではじめてロールタイプのペーパーが作られるようになったのは大正時代のことですが、普通の家庭で使われるようになるのは昭和の中ごろからです。

しゃがんで使うトイレ(いわゆる和式)は日本だけではなく世界中にあります。入口を背にして使うのは、実は日本だけです。ほとんどの地域では、入り口を向いて使用します。トイレにドアがない、もしくは個室になっていない地域もありますので、海外旅行に行った際には、ぜひご注意ください。(西野晶)



【参考文献】

- 『トイレの大常識』平田純一／監修、ポプラ社、2006
- 『トイレのなぜ48』日本トイレ協会／編、草土文化、2001
- 『トイレのおかげ』森枝雄司／写真・文、福音館書店、2007
- 『トイレ四方山はなし』北俊夫／著、文芸社、2022
- 『世界のしゃがみ方』ヨコタ村上孝之／著、平凡社、2015

追記:『よむよむ』は今号で250号となりました。記念すべき号の1面に尾籠な話で失礼しました。水に流していただけると嬉しいです。これからも『よむよむ』をよろしく願います。

編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL/025-750-5100 FAX/025-750-5103

「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook

おまちしています



### 11月のテーマ図書

#### ■一行本舗(いちぎょうほんぽ) 11月10日(日)まで

読書週間の標語「この一行に逢いにきた」にちなみ、スタッフおすすめの一冊をポップにした本を情報館、川西・松代分室で貸出中です。新たな本に出逢うきっかけにぜひどうぞ!



「起きたとき、ひとりきりだって気づいたら、泣いちゃうから」 (『僕は君を殺せない』長谷川タノ著、集英社)

「話す声は聞こえるし、ことばは聞こえるのですが、話すひとの心は聞こえてこないのです」 (『モモ』ミヒヤエル・エンデ著、岩波書店)

「時に、あるものを溺愛している人よりもそれを嫌いな人のほうが本質をしっかり見ているように思うことがある」 (『桃を煮るひと』くどうれいん著、ミシマ社)

#### ■児童向け

##### どんなおしごと?

『ペロのおしごと』、『こうじげんば』など、いろいろなお仕事の本を紹介します。



##### ニッポンをしよう!

『漢字なりたち絵本』、『伝統工芸ってなに?』など、日本の文化を知ることができる本を紹介します。

#### ■一般向け

##### 秋まっさかり

『読んでばっか』、『しぜんつくるあそび』など、深まる秋を楽しむ本を紹介します。



##### はたらきものっ!

『おしごとそうだんセンター』、『山の上の家事学校』など、さまざまな働き方を考える本を紹介します。

### 新着地域資料

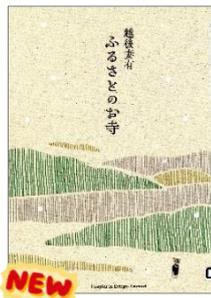


#### 『越後妻有 ふるさとのお寺』

曹洞宗新潟県第一宗務所第八教区 青年僧侶の会、2024.9

妻有地域の全31か寺の曹洞宗寺院を紹介する冊子『越後妻有 ふるさとのお寺』が出版されました(教区割りの関係から松代・松之山地域の寺院は未収録で、小千谷市の真人・岩沢の2か寺が収録されています)。

「お寺と郷土」をテーマに、1か寺につき見開き2ページの文章と写真で成り立ちや逸話などを紹介。同会の桑原龍弘会長(龍源寺)は本書のなかで、「これから先、心の在り方はますます困難を極める様相を呈しておりますが、妻有地域の人々の心の支え、拠り所となり得る『お寺』と『ふるさと』の関係性をあらためて感じてもらえれば幸いです」と記しています。



### 第94回名作読書講座

#### 『放浪記』林芙美子/著 (新潮文庫)

第一次世界大戦後の困難な時代を背景に、飢えと貧困にあえぐ一人の若い女性が、下女、女中、カフェの女給と職を転々としながら向上心を失うことなく強く生きる姿を描きます。

大正11年から5年間にわたり書きとめた雑記帳をもとにした、林芙美子若き日の自叙伝です。



日程/11月21日(木)

午後7時30分~8時45分

会場/第1集会室 対象/中学生以上

定員/25人(申込み不要)

### サトシンさんの絵本よみまショー 開催しました!

読書週間イベントとして、10月26日に絵本作家サトシンさんの「絵本よみまショー」を開催しました。子どもから大人まで、50人以上の方が参加してくださいました。



人気作『うんこ!』や最新作『はばたいたフトン』などの読み聞かせ、作品への思いやウラ話、絵本をもとに作られた曲にあわせて歌なども披露していただきました。販売会&サイン会では、購入した絵本にサインやイラストを描いてもらい、サトシンさんとお話や質問などで楽しい時間を過ごすことができました。

参加してくれた保護者の方からは、「心が元気になりました」、「こどもたちに届けたい本だらけでした」などの感想をいただきました。みなさんありがとうございました。



スタッフによる日々の声をお伝えします

### ねえ、きいて その50

先月、児童文学作家の中川李枝子さんが逝去されました。1Fの追悼コーナーには馴染みの深い作品が並んでいます。

小学校に入学し、はじめての教科書で音読したのが『くじらぐも』。「四じかんめのことです。」から始まる文章は、柿本幸造さんのほんわかとした挿絵とともに記憶に残っています。出産祝いいただいた『ぐりとぐらとすみれちゃん』はわが子に何度も読み聞かせした一冊。かぼちゃ料理がたくさん並ぶ最後のページが大好きで真似して一緒に作ってみたり。子育てに悩んだ時に会った『子どもはみんな問題児。』は、中川さんからの温かいメッセージが心を軽くしてくれました。すてきな作品の数々を残してくれた中川さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。(村山)



## 本のちから(8)

子ども読書活動推進コーディネーター  
林 篤子



風が見えますか？

子どもたちにぜひ読み聞かせしたい絵本のひとつに『シルベルトとかぜ』があります。むかし子どもだったすべての人は、きっと風と遊んだ経験があるのではないのでしょうか。

風船を飛ばしたり、洗濯物を着ようとしたり、水に浮かべた船を走らせたり、りんごをひとつ落とすしてくれたり、凧をあげてくれたり、風車を回したり、風はいろいろなことをします。時には傘をこわしてしまったり、せっかく集めた葉っぱをまきちらしてしまったりもするけれど、シルベルトは風と遊ぶことが大好きです。遊び疲れた風とシルベルトは、最後、柳の木の下で横になり、二人で寝転んで終わります。こんなふうに風と遊ぶシルベルトはなんと心

が豊かなのでしょうか。

いつもこの本を読む前に、「みなさん、風は見えますか？」と聞きます。「見えないよ」と首を横に振っていた子どもたち。でも、読み終わってもう一度同じ質問をすると、窓の外を眺めて「見えるよ」と口々に言います。「葉っぱがゆれているもん！」「カーテンがゆれているから！」ときらきらした瞳で教えてくれます。そんな子どもたちの言葉を聞いたときに、私はとても幸せな気持ちになります。

見えないものを見ようとする、想像することは、心の豊かさやたくましさにつながっていくように思います。

『シルベルトとかぜ』マリー・ホール・エッツ作、たなべいすず訳、富山房（Eエ） ☆基本図書コーナーにあります

## スタッフのおすすめ本(南雲)

### 『あなたの心を穏やかにする ブッダの言葉』 洋泉社MOOK、洋泉社

人生のなかで起こるさまざまな出来事や不安。それに振りまわれないためのヒントが散りばめられた、ブッダの言葉が心にささる一冊です。

聖人といわれるブッダでさえも、そこに至るまでには数多くの困難や苦悩にぶつかり、心を穏やかに生きていく術を身につけていきました。生きていともかけない場面に直面したり、困惑を繰り返したりします。しかし、たとえ悲惨な状況にあっても、それが永遠に続くことはありません。いずれ状況も移り変わる、それがこの世の中というもの。同じようにいいことばかりも続きません。おごり高ぶり有頂天になってしまえば、すぐにまた落ちてしまいます。

最終的に、どのようなときであっても謙虚さを忘れずに生きていくことが最も大切であると、ブッダはよりよく生きていくための言葉や教えを我々に残してくれています。

(南雲)



## 新着資料紹介 9月21日～10月20日分

### 【一般図書】

●『日本を変えたすごい僧侶図鑑』袁輪顕量／編著 産業編集センター(哲宗 182ミ) ●『人間関係リセット症候群』ゆうきゆう／著 内外出版社(社会 361ユ) ●『この世でいちばん』を科学する』デイヴィッド・ダーリング／著 原書房(自然 404ダ) ●『りんごのお菓子づくり』今井ようこ／著 誠文堂新光社(菓子 596イ) ●『日本ご当地チェーン大全』辰巳出版(松代 673ニ) ●『あの鐘を鳴らしたのはわたし』秋山気清／著 音楽之友社(中里 762ア) ●『龍ノ眼』麻宮好／著 祥伝社(松之山 913.6ア) ●『スメラミシング』小川哲／著 河出書房新社(日文 913.6オ) ●『さいわい住むと人のいう』菰野江名／著 ポプラ社(日文 913.6コ) ●『星が人を愛すことなかれ』斜線堂有紀／著 集英社(川西 913.6シ) ●『僕たちの保存』長嶋有／著 文藝春秋(日文 913.6ナ) ●『またうど』村木嵐／著 幻冬舎(日文 913.6ム) ●『長い読書』島田潤一郎／著 みすず書房(日文 914.6シ) ●『三部作』ヨン・フォッセ／著 早川書房(外文 949フ)

### 【児童図書】

●『売る仕事の一日』西山昭彦／監修 保育社(ティーンズ 335ウ) ●『写真と動画でわかるはじめての子ども手話』モンキー高野／著 ナツメ社(児童一般 801モ) ●『わかったさんのスイートポテト』永井郁子／作・絵 あかね書房(児童日文 913ナ) ●『どろぼう猫とモヤモヤのこいつ』小手鞠い／作 静山社(中条児童 913コ) ●『中国のフェアリー・テール』ローレンス・ハウスマン／作 福音館書店(児童外文 933ハ) ●『ごはんのつぶとおこめのつぶ』いとうひろし／え アリス館(中里児童 Eイ) ●『もぐもぐかめかめ』きたがわめぐみ／作・絵 教育画劇(絵本 Eキ) ●『うろおぼえ一家のおみせや』出口かずみ／作 理論社(絵本 Eデ) ●『サケの旅』平井佑之介／写真・文 文一総合出版(絵本 Eヒ) ●『ねこのオーランド魔法のじゅうたん』キャスリーン・ヘイル／さく 好学社(絵本 Eヘ) ●『おばあちゃんの白い鳥』マラク・マタール／作 講談社(絵本 Eマ)

### 【地域資料】

●『さびしさを紡ぐ ハンセン病を生きるということ』山下多恵子／著 未知谷(地域 T910.2ヤ)



# 2024 第78回 読書週間

10月27日(日)～11月9日(土)  
標語「この一行に逢いにきた」

## 映画上映会 『土を喰らう十二カ月』



沢田研二主演。四季折々の食で綴る人生ドラマ。原案は水上勉のエッセイ『土を喰う日々ーわが精進十二カ月ー』（新潮文庫）ほか。

©2022『土を喰らう十二カ月』製作委員会

監督・脚本／中江裕司 料理／土井善晴(料理研究家)

出演／沢田研二、松たか子 ほか

日時／11月10日(日)

①午前10時～正午

②午後2時～午後4時（開場各30分前）

会場／視聴覚ホール 定員／各回先着90人

★情報館事務室にて前売券販売中。

専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。

電話・FAXでもお申込みできます。

入場料  
500円

使われなくなった着物に もう一度息を吹き込む

## Mitsuyoshi Sugiura Runway Show

ファッションデザイナーの杉浦充宜(すぎうら・みつよし)さんによるファッション&トークショー。

日時／11月16日(土)

第1部(ショー)

午後2時～2時30分

第2部(トーク) ～午後3時30分

会場／2階喫茶コーナー

定員／60人(要事前申込み) 空席があれば当日も可



入場料  
無料

申込み、お問合わせは情報館(Tel/025-750-5100)まで。  
イベントの詳細は各専用チラシ等をご覧ください。

## リサイクル本市

情報館で不用になった図書・雑誌を販売します。

日時／11月26日(火)

～12月15日(日)

会場／2階ギャラリーほか

料金／1冊50円

(特別価格、セット価格もあります)

その他／お持ち帰り用のバッグや袋、細かいお金をご用意ください。



## 閉架書庫公開 11月はお休みします

【今後の公開予定】

12/15、2/23、3/16 (全て日曜日)

## 小千谷市ひと・まち・文化共創拠点

# 「ホントカ。」 9/28(土) OPEN!

十日町市民も利用登録することができます。

### ◇利用できるサービス

- 図書館資料の貸出
- 予約(所蔵のある資料)
- インターネットサービス など



### ◇登録方法

利用登録条件を確認できるもの(運転免許証、マイナンバーカード、社員証、学生証など)をお持ちのうえ、「ホントカ。」で登録手続きをお願いします。

## 小千谷市ひと・まち・文化拠点「ホントカ。」

- 所在地／小千谷市本町1-13-35
- 開館時間／午前9時～午後10時
- 休館日／第2・第4火曜日、年末年始(12/29～1/3)
- 電話／0258-82-2724

※小千谷市民も十日町情報館の利用登録をすることができます。詳しくは各施設のホームページ等でご確認ください。

## 11月のおはなし会

### ◆情報館

2日(土)・9日(土)・30日(土)

／おはなしぴよぴよ(乳幼児)

16日(土)／読み聞かせの会 どんぐり

(幼児～小学校低学年)

23日(土)／おはなし「たまてばこ」(乳幼児)

### ◆川西分室

16日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)

### ◆松代分室

9日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)



## その他の催し

### ●書って何だ!? 新潟越場研究室

日時／11月3日(日)～10日(日) ※10日は午後3時まで  
会場／ギャラリー 入場／無料

### ●新潟県立図書館 電子書籍体験会

内容／県立図書館が無料で提供する電子書籍サービスを無料で体験できます。申込み不要。

日時／11月10日(日)

午前10時30分～午後1時、午後2時～3時30分

会場／十日町情報館 2階インターネットコーナーとなり  
問合せ／新潟県立図書館(Tel:025-284-6001)



## 十日町情報館 開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103